地元中学生が職場体験

令和２年１２月３日

１.日立第一高等学校附属中学校から計４名の中学生が来訪

令和２年 10 月 29 日（木）～30 日（金）の２日間、職場体験学習を行い、地元中学生４名が当センターを訪れました。

２.一日目

林木の増殖方法の体験として、アジサイとキンモクセイの枝を採取し、さし木のための穂づくりを行いました。全員が剪定バサミとナイフを使うのが初めてということで、手元が狂わないかハラハラしましたが、何本か作るうちにすぐに慣れ、無事に苗畑にさし付けることができました。

その後は、エリートツリーの選抜を、遺伝子レベルで研究しているという話を興味深く聞いていました（写真１）。

写真１　エリートツリー前での様子

３.二日目

種子の保存方法について学ぶため、モミの球果から種子を取り出す作業を行いました。乾燥した球果がバラバラにほぐれてしまうことに驚いていましたが、一粒ずつ非常に丁寧に種子を取り出していました。

写真２　ファコップによる強度計測の様子

続いて、組織培養による増殖方法を体験するため、カギカズラをハサミとピンセットを使い、培地へ植え付ける作業を行いました。無菌状態を保つ必要があるため、「緊張して手が震えた。」と全員が口を揃えて言っていましたが、作業を終えた後は、貴重な体験に興奮を抑えきれない様子でした。

その後は、バーテックスとファコップを使って樹木の高さと幹の強度の計測（写真２）、スギ雄花の採取と顕微鏡による観察、最後に熱帯温室で品種開発されたメリア等を観察しながら海外協力の取組について学びました（写真３）。

４.職場体験学習を終えて

職場体験学習を終えた生徒達からは、「林木育種センターでどのような研究をしているのか分かった。将来は研究者になりたい。」「アジサイ等、さし木で苗木を増やせることが興味深かった。」「植物の培養や顕微鏡での観察など、事前にやりたいと思っていたことを体験することができた。実際に間近で植物に触れて興味が沸いてきた。植物って凄い！いいなって思った。」など、林木の育種に携わる者として、とても嬉しい前向きな感想をもらいました。

写真３　熱帯温室での様子

今年は、新型コロナウイルスの影響により、「３密」対策などに気を遣いながらの実施となりましたが、来年度以降も工夫をしながら職場体験学習を継続していきたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いいたします。

（総務部　管理課）